

長野県知事インタビュー



昭和59年3月	東京大学法学部卒業	平成19年4月	横浜市副市長
昭和59年4月	自治省入省	平成21年10月	内閣府行政刷新会議事務局次長
平成13年1月	長野県企画局長	平成22年9月	長野県知事
平成13年10月	長野県副知事	平成26年9月	長野県知事（2期目）
平成16年7月	総務省過疎対策室長	平成30年9月	長野県知事（3期目）

全国有数のウィンタースポーツ県で、また、多くのスキー場を有している長野県の阿部知事に、スノースポーツへの取り組みやスノーリゾート地域の振興策などについてお聞きしました。

岩尾専務)

本日は貴重なお時間をいただきありがとうございます。早速本題に入らせていただきます。スキー等のスノースポーツが大変盛んな貴県にとって、観光や地域振興におけるスノースポーツの位置づけはいかがでしょうか。

阿部知事)

スキー等のスノースポーツは、単に観光のみならず地域振興など、県政全般においてもウエイトが高いと認識しております。県のブランド力もスノースポーツと密接不可分です。一例としては、海外で自己紹介の際、長野県知事と申し上げれば「冬季オリンピックのNAGANOですね」、という反応が返ってきます。そして、冬季における観光の中心はスキー場です。



岩尾専務)

今シーズン、スキー場はいかがでしたでしょうか？
 コロナも落ち着いてきて、国も観光インバウンド再開に向け実証ツアーを行う等の動きが出てきましたが、今後の観光への取り組みはいかがでしょうか。

阿部知事)

今シーズンのスキー場入込数は11月から3月まで460万人、観光客全体が戻らない中、インバウンドなしでコロナ前の7割くらいまで戻りました。これまではコロナ禍で集客が控えられてきましたが、幸いコロナも徐々に落ち着いて先行きに明るさが見えてきました。県としても今年度を「信州観光復興元年」として、これから攻めに転じたいと思います。それもただ従前に戻すということではなく、長期滞在型、リピーターの獲得、という点に力を入れていきたいです。こうした点でも、スノースポーツはまさにぴったりと言えます。ただ見るだけの観光ですと一回見て終わりですが、スキーなど体験型の場合はファンになれば、一定程度の時間を滞在するほか毎年来ていただけます。地域が連携した広域観光圏を形成するなど、長期滞在型の誘客を目指していきます。

岩尾専務)

スノースポーツ界にとっても、恐らく来シーズンは久しぶりに観光でもインバウンドが期待できそうです。それに向けての貴県の取り組みはいかがでしょうか。

阿部知事)

観光庁のインバウンド再開に向けた実証ツアーと一緒に取り組みました。本県の月別の宿泊動向では、全体としては7・8月が一番多いです。ただ、外国人に限れば、冬季が圧倒的に多く、やはりスキー場がインバウンドの目玉です。

スキーヤーのみならず、例えば東南アジアの方々には、まず雪に親しんでいただく、雪国の暮らしや文化に触れ楽しんでいただく、これが大事ではないでしょうか。まずリピーターになっていただき、そのうえで、スキーやスノーボードを覚えていただければ草の根レベルの国際交流にもつながります。

岩尾専務)

スノースポーツを盛んにして行くためにはスノースポーツ人口の拡大が欠かせません。これにはインバウンドの増加と、やはり子供たちにスノースポーツに親しんでいただくことが肝要です。雪あり県を代表する、貴県の取り組みはいかがでしょうか。

阿部知事)

県としても、子供たちが早くからスキーに親しむことは非常に大切だと考えています。コロナ禍において一般的に団体旅行は敬遠される傾向にありますが、本県は身近にスキー場がたくさんありますから、小中学校のスキー教室はそんなに減っていません。子供たちがスキーに親しめるよう環境作りをさらに進めます。

岩尾専務)

授業の中にスキーを取り入れることはいかがでしょうか。

阿部知事)

地域によって事情が異なるでしょうが、一般的には、学校の授業でスキーを行うことは難しいのではないのでしょうか。学校では部活動の地域移行の動きもあります。小中学生とその家族を対象にリフト券の半額キャンペーンを実施しましたが、学校に協力いただきながら、家族でスキーに親しんでもらうよう進めています。河野さん、野沢温泉村ではいかがでしょうか？

河野常務)

文科省にお願いし、教育課程特例校にさせていただいています。体育の授業とは別に、スキー科があります。授業は野沢温泉スキークラブが協力しており、先生も生徒と一緒に滑っています。また、これとは別ですが、長野県スキー連盟もスキー講師の派遣を検討しています。地域のスキー場と連携しリフトの優待券を出していただく等、教育委員会、学校だけではなく皆で一緒に取り組むことが大切ではないのでしょうか。

阿部知事)

確かに学校だけにお任せするのは難しくなっています。子供たちがスキーに親しむためには、リフトの優待券を配るだけではなく、教育委員会や地域、スキー関係者などが連携して、先生に負担のかからない、長野方式が取れないか検討の価値があると思います。本県にはオリンピック選手も大勢おりますから、学校で体験談をお話いただき、子供たちに興味を持ってもらうこともできるでしょう。



岩尾専務)

他県からのスキー修学旅行はいかがでしょうか。

阿部知事)

県外からの団体旅行はコロナ禍で大変厳しいです。SDGsへの関心が高まっていますので、今年度県では学びの要素を入れた体験型修学旅行に対しての支援を実施します。体験にはスキー体験も入っていますので県外のスキー修学旅行の誘致に活用したいと思っています。

岩尾専務)

一般的にスキー場は地域にとっての基幹産業でもあります。スキー客が増えてスキー場が元気になることは観光のみならず地域振興に欠かせません。知事のお考えをお聞かせください。

阿部知事)

本県では、例えば、野沢温泉のように、スキー場が自治体と一体になっているところも多く、「スキー場の発展＝自治体の発展」であるといっても過言ではありません。県としては、スノースポーツやスキー場を支援することは地域を支援することと同じという考えで取組を進めています。スキー場に多くの方々においでいただくことがまさに地域振興です。先ほども申し上げたとおり「信州観光復興元年」としてこれから攻めに転じる中で、冬季観光の目玉はやはりスノーリゾートであると考えています。雪を見るだけでもよいですからできるだけ多くの皆様においでいただけるよう、各地域や観光団体とも連携して集客を進めます。

岩尾専務)

唐突かもしれませんが、貴県では雪の日のプロモーションをされていますが、国民の休日として「雪の日」の制定を目指すことについていかがお考えでしょうか。

阿部知事)

「山の日」の制定については、私も県を代表し活動させていただきました。雪は気候変動の影響を大きく受けます。地球環境を守るという点からも雪に関心を持っていただくことは大事な観点です。ただ、雪の降らない県も多いですからどの程度賛同者が得られるのかがポイントでしょう。

岩尾専務)

知事のお言葉のとおりです。雪なし県が多いです。ただ、海なし県もある中で「海の日」が制定されましたので、程度問題かもしれません。

阿部知事)

地球環境の保全という点からも「雪」をアピールして行くことは時流に乗っているとも言えます。スノーリゾート信州プロモーション委員会の皆様ともご相談してみます。

岩尾専務)

最後にこれからのスノーリゾート振興についてお考えをお聞かせ頂けないでしょうか。

阿部知事)

冬季オリンピックを開催した長野県におきましては、ウインタースポーツの重みが違います。特にスキー場は地域振興の要です。今年は北京で冬季オリンピックが開かれました。円滑な会場運営、選手育成など本県も随分協力をさせていただきました。中国のスキー人口は急速に増加しているようですから、コロナが一段落すれば、パウダースノーを求め、いずれ、日本に、また本県にも大勢のスキーヤー・スノーボーダーが訪れることになるでしょう。また、平昌オリンピックもありましたし、東アジアでのウインタースポーツは今後益々盛んになります。東アジアのみならず、オーストラリア、ヨーロッパ、北米等とウインタースポーツを通した国際交流を進めたいと考えています。地球温暖化が進むなか、日本のパウダースノーはますます貴重なものとなっていますので、是非、世界中から来ていただけるよう取り組んでまいります。

岩尾専務)

知事から力強いお言葉をいただきありがとうございます。観光インバウンドも来シーズンまでには解禁されそうですので、スノースポーツ界にとっても観光復興元年になることを祈っています。本日はありがとうございました。



写真（左から）：協議会 岩尾専務／阿部長野県知事／協議会 河野常務